

総選挙 2014

静岡の声

「幼い子どものいる母親が働くなんて、子どもがかわいそう」。浜松市の人材育成会社「はあもにい」代表の大野晴己さん(五三)同市は、二十三年前に会社を立ち上げたころ、何度もこう言われたことを覚えている。当時、二人の娘は三歳と一歳。「夫は仕事で忙しく、睡眠時間を削って仕事と育児を両立していた。でも子育てしながら働く女性がまだ少なく、面と向かって非難されることもあった」と振り返る。

大学卒業後に放送局に入

解散で推進法廃案

本気度どれくらい

女性活用

り、ラジオ番組の制作などをしていた。二十五歳で寿退社したが、そのときの人脈でセミナー講師やイベント運営などの依頼が舞い込むようになった。一人で会社を始め、いまは従業員二十二入。FMラジオの役員や大学の客員教授なども務め、多忙な毎日だ。もちろん当初は、珍しい女性経営者ならではの苦勞も。「女ではなく男を出せ」と言



人材育成などを手がける会社を起業した大野晴己代表=浜松市南区白羽町の「はあもにい」で

「企業経営もそうだけど、目標のためには細くても長く続けることが大切。選挙後にどうするか、政治家の本気度を見せてほしい」
一方で、女性活用の動きを冷やかに見る女性もいる。高校生から小学生までの子ども三人を育てるシングルマザーの女性(四三)静岡市は「正社員や管理職になりたい女性ばかりじゃない。個々の事情を考えないで、結局は政治家の人気取りでしょ」と批判する。
三つの仕事を掛け持ちし、夜遅くまで働く。離婚した夫から養育費は受け取っておらず、預貯金をする余裕はない。それでも、子どもの学校行事などがあり、正社員より時間の融通の利くアルバイトの方がいいと話す。「本当に女性活用というなら、キャリアアウーマンだけでなく、シングルマザーなどいろんな立場の女性を後押ししてほしい」と注文を付けた。
「そもそも、女性活用をたう政治の世界に女性が少ない」と指摘するのは、日本の女性政治家の先駆けとなった故市川房枝元参院議員の秘書で、市川房枝記念会女性と政治センター(東京)事務局長を務める久保公子さん(六四)。日本の女性国会議員の割合は割ほどと、先進国の中でも低い。久保さんは「国民を代表する立場の政治家に、女性が少ないことは日本の現状を象徴している。企業に女性活用を迫る前に、まずは政治の世界で手本を示すべきだ」と訴えた。

(宿谷紀子)